

佳作

ひいおばあちゃん

茨城県 日立市立宮田小学校二年 磯崎 友斗

夏休みのある日、一かいから

「ドスン。」

と大きな音がしました。

二かいでベンキょうしていたぼくは、ドアがしまった音だと思い、ベンキょうをはじめました。すると、一かいからひいおばあちゃんのおよぶこえがしたので、すぐにひいおばあちゃんの元へかけつけました。

ひいおばあちゃんは、わしつでたおれこんでいました。

ぼくはどうしてこうなったのかびっくりしました。お母さんが、たおれたひいおばあちゃんをおこそうとしたけれど、いたみがつよくておこせませんでした。

すぐに、しごと中のお父さん、おばあちゃんに

んらくし、きゆうきゆう車をよびました。

そして、きゆうきゆう車が来てひいおばあちゃん
は、びょういんにはこばれました。

左大たいぶこっせつで入いん、よく日手じゅつに
なりました。

ひいおばあちゃんは九十八さいで、人生はつの入
いんです。

いつもけんこうがじまんで、みのまわりのことや
せんたく、かんたんなりょうりなどじぶんででき
ます。

あたまもすっかりしていて、お母さんよりもぼけ
ていません。

入いん中、おばあちゃんがずっとひいおばあちゃん
のつきそいで帰ってこなくて、お父さんがしごと
で帰ってこれない日もあったのでさみしかったです。

でも、そんなときこそ、ぼくと妹、お母さんの三
人で力をあわせるときだと思いました。ひいおばあ
ちゃんのおみまいに行ったとき、九十八さいでいっ
しょうけんめいりハビリにがんばるすがたを見て、
すごいと思いました。何さいになっても生きること
にまっすぐなひいおばあちゃん、そのてだすけをし
てくれるおいしやさんとかんごしさんにかんどうし

ました。

見えない力でも、とても大きな力にかんじました。

ぼくも、いつか人のやくにたてる人になりたいで
す。早くひいおばあちゃんがたいいんしてきてほし
いです。